

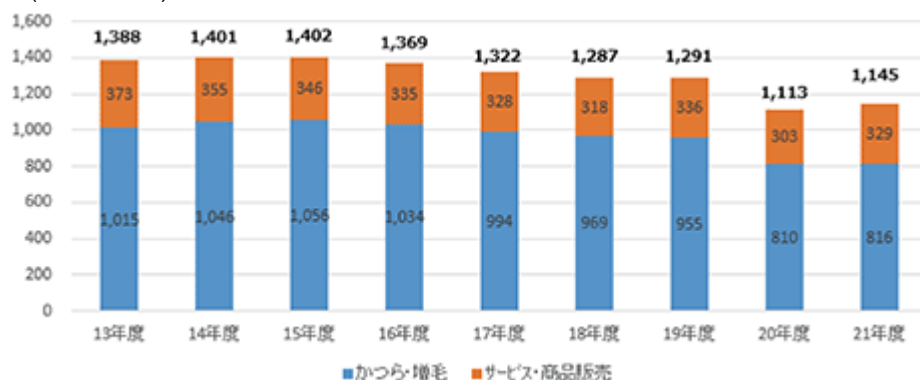
(3) 経営環境及び中長期的な会社の経営戦略

今後の経済見通しにつきましては、新型コロナウイルスの感染症拡大による活動制限の緩和に伴い、個人消費持ち直しの動きがみられるものの、ウクライナ情勢の長期化に伴う原油、原材料価格の高騰や為替相場の変動などによる物価上昇圧力が個人消費に影響を及ぼしており、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社の属する毛髪業界及びその隣接業界を含めた新規参入企業や同業他社との競合激化などにより、当社を取り巻く事業環境は引き続き厳しいものと考えております。

< 国内毛髪業市場の動向 >

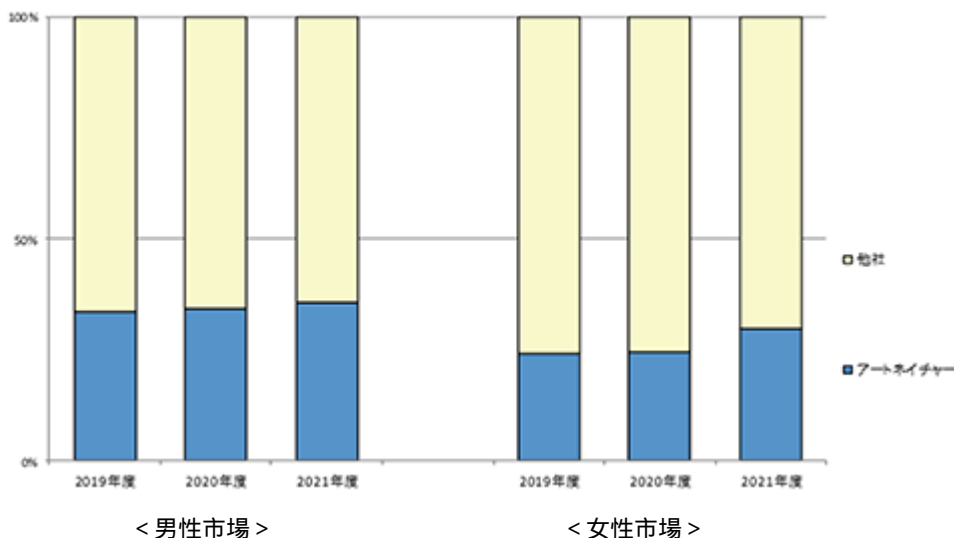
(単位：億円)



注：事業者売上高ベース

(出所)(株)矢野経済研究所「ヘアケアマーケティング総鑑」

< 国内毛髪業市場におけるシェア >



注：事業者売上高ベース

(出所)(株)矢野経済研究所「ヘアケアマーケティング総鑑」

国内毛髪業市場において、男性市場でトップシェア、女性市場で第2位となっております。

2008年秋のリーマンショック以降の消費の低迷に加え、隣接市場との競争激化によって低迷しておりましたが、各社の女性用ウィッグ強化策や男性顧客へのリピート販売が実を結び2012年度以降拡大に転じてまいりました。しかし、2016年度以降は新規参入企業や中小事業者の低価格品が市場に多く出回った影響から市場は一転して減少傾向となり、2021年度は、コロナ禍の影響を強く受けた2020年度対比では増加したものの、コロナ禍前の市場規模には戻っていません。